

省力・安定生産の強〜い味方

〜緩効性肥料〜

**ベストマッチ**

特徴と魅力について



カネコ種苗(株) 農業部 肥料推進グループ



はじめて

皆様のおかげで、「ベストマッチ」は、販売開始から15年目となります。販売当初から、栽培する作物の生育・地域の気候に合わせたきめ細かい配合設計を行い、種苗会社のこだわりも含め、多種多様な銘柄が設計・製造・販売されました。試作登録も含め、約

200種類にも及びました。

現在は、製造効率と銘柄集約の動きもあり、時間の経過と共に約50種類に落ち着きつつあります。まだまだ、発展途上ではありますが、追肥不要の一発肥料「ベストマッチ」の特徴と魅力について、お伝えしたいと思います。

①省力

【散布作業】

- 元肥一発施肥  
直播種・苗植付の前に一回の施肥で、追肥不要。
- 機械施肥が可能  
機械施肥に安心して使用可能。

大きく異なります。栽培中の追肥を考慮することなく、作物の生育に合った肥料を元肥として、一回の施肥で安定した肥効が望めるのが「ベストマッチ」です。

**【肥効の効果は高い技術力】**

「ベストマッチ」は、住友化学(株)との共同開発により生まれました。同社製の被覆コーティング(ポリウレタン樹脂製)技術は、一定の温度下における安定したシグモイド型の溶出を実現

現しています。また、一般的な被覆肥料で言われている、温度が高ければ溶出が早まり、低ければ溶出が遅くなるといった点も「ベストマッチ」では、作物が感応する温度に準じて溶出するため、狙ったタイミングに対するブレが少ないといった特徴も兼ね備えております。溶出タイプも様々で、20日〜250日まで幅広い種類があり、複数の被覆肥料や化成肥料との組合せ配合により、各作物への元肥一発施肥を実現しています。

**溶出のしくみ**

吸水 → 溶解・膨潤 → 溶出

尿素 → 固体尿素 → N成分

樹脂皮膜 → 尿素の飽和水溶液

ポリウレタン樹脂

例：80日タイプ

0日目 18日目 40日目

シグモイド型の溶出

効かせたい時に効き、切るべき時に切る！  
同じ日数タイプでも出方が違う！

従来の直線型(リニア型)の溶出

シグモイド型は、最初は遅く、その後徐々に高まる山型の溶出パターンです。特定の時期の肥効を高めることができます。

**【きめ細やかな配合設計】**

粒径を揃えて混合  
作物・作型に最適な肥料のできあがり!!

溶出シミュレーションで肥効を確認

動力利用の施肥(ブロードキャスト)や側条施肥機などでも大丈夫。粒径の揃いが良いので、極度の施肥ムラが少ない。被覆が碎けないので、肥効は安定、機械にも優しい。



②堆肥との混用  
【ハイチツン銘柄の推奨】

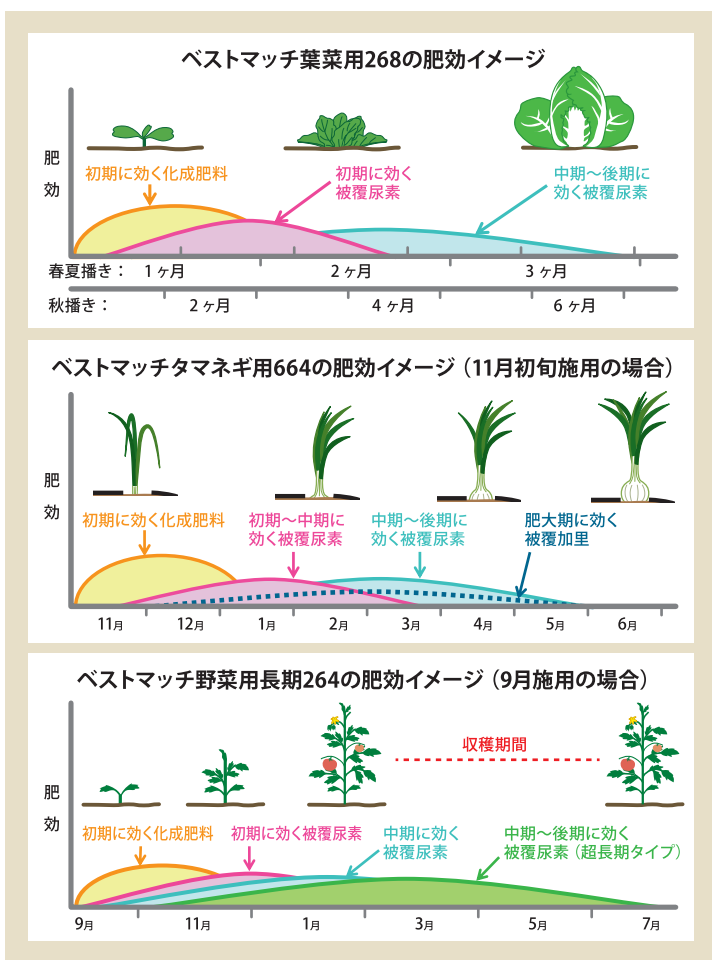


マメ用233(32-3-3)をデントコーン栽培に利用

一般的な堆肥では、リン成分とカリ成分が多くなり過ぎてしまい、そのままでは窒素成分が不足するケースが多く見られます。不足しがちな窒素成分を、「ベストマッチ」(ハイチツン銘柄)で補うことにより、生育も収量も安定度を増します。ハイチツン銘柄は、少量施肥(側条施肥)で十分な効果を生みます。生産者にとっても、ハイチツン肥料は、使用量を減少させ、施肥の手間も少なくなり、結果として、低コストの方向となります。

③肥料の特徴と施肥設計

栽培する作物により、生育期間は



【肥料設計は種苗会社のこだわり】

露地栽培では、温度は地域や気候に左右される部分ではありますが、「ベストマッチ」は、作物の生育している温度に準じて、肥料成分が溶出されます。特に、春や秋の気候が安定しにくい時期でも、作物の生育過程にマッチした肥料成分が溶出される設計となっています。

無駄な肥料は、畑から流出し、地下水・河川の富栄養化を招き、環境汚染にも繋がります。「ベストマッチ」は、作業や肥料成分の無駄を極力除

いた肥料になります。

一般的に、作物の生育は、主に積算温度でデータ化され、示されるケースが多く見られます。「ベストマッチ」は、栽培地域の温度データから、肥料の溶出シミュレーションが出来ます。溶出シミュレーションと実際の栽培とを照らし合わせ、最適な肥料を提案します。

「ベストマッチ」は種苗会社のノウハウを詰め込んだ設計をしています。効かせたいときに効かせる肥料、それが「ベストマッチ」!